

行政や企業との連携で 寄贈量の増加へ

NPO法人 Shining

“地域で子どもを見守る”をモットーに、鈴鹿子ども食堂“りんごの家”と、不登校支援の“みんなの居場所ラビュタすずか”を軸に、乳幼児から若者までを対象とする孤独や不安を軽減できる居場所づくりを目標に取り組んでいます。

話し手 岡田 聖子氏

専門家派遣 6回 10時間



所在地	三重県鈴鹿市	2021 年度実績	
代表者名	理事長 岡田 聖子	取り扱い量	1.3 トン
設立年	2014年	食料提供者	企業 約 60 社
スタッフ数	有給26名／ボランティア32名	食料提供先	約 360 世帯
活動日数	週5日		
URL	https://nposhining.com		

直面していた課題

缶詰などが不足 地元からの寄贈を

子どもがいる困窮世帯に対して鈴鹿市委託事業による訪問型見守り事業（食支援付き）や、WAM助成事業による訪問型食料配布事業を実施しています。

鈴鹿市は農家が多いので生鮮品やお米は集まりやすいのですが、賞味期限が長いレトルト品や缶詰が少ないため、その寄贈量を増やすことが課題でした。食料をできるだけ地元から集めるため、行政との連携を深めたいと思っていました。



派遣された専門家



望月 健次 氏 鈴木和樹 氏
認定NPO法人 フードバンクふじのくに

一番の課題だと感じていた、行政連携から取り組みました。私たちが静岡県で運営しているフードバンクふじのくにの自治体との連携事例などを共有し、団体の活動拠点である鈴鹿市にも積極的に働きかけることにしました。

また、食品寄贈量を増やすため、フードドライブの実施を提案し、静岡県でお付き合いがある株式会社バローホールディングスを紹介しました。鈴鹿市や企業との打ち合わせ時には岐阜県まで足を運び、フードバンクふじのくにの事例を共有することで、実現可能性に目を向けてもらうようにしました。

どんな変化が起きた？

フードドライブが決定 行政連携も前進

とても親身に団体の意向を聞き取っていただいたうえで必要なことを提案してくださり、大変満足しています。短い期間でしたが、すでに多くの助言をもらい、成果を実感しています。

2023年の春にはバロー鈴鹿店でフードドライブを行うことになりました。実施までの手順を確認する打ち合わせに専門家も同席いただき、おおむね合意することができました。

また、鈴鹿市長との面談や子ども政策課との情報共有も実現し、行政連携の可能性について意見交換できました。鈴鹿市とはこれまで以上に連携し、子どもがいる困窮世帯へ食を通じた支援や居場所づくりを拡充していきたいと思っています。

多岐にわたる活動を整理 情報を伝わりやすく

NPO法人 らしく

子ども支援に取り組み、フードバンクや学びの場づくりを行っています。中でも子育て中の世帯への宅食事業“みやこのじょうこども宅食”を基軸にし、各家庭に定期的に食料を届けながら話を聞くことで、自立に向け伴走支援をしています。

話し手 甲斐 圭子 氏

専門家派遣 2回 6時間



所在地	宮崎県都城市	2021 年度実績	
代表者名	理事長 甲斐 圭子	取り扱い量	24 トン
設立年	2014年	食料提供者	企業 約 10 社
スタッフ数	有給11名／ボランティア10名	食料提供先	約 100 世帯
活動日数	週5日		
URL	https://rashiku.or.jp/		

直面していた課題

企業への対応を強化し 取り扱い量の増加へ

食料は企業中心に受け入れ、主に子育て世帯に個別配布していますが、子ども食堂団体などからも支援の要望があり、さらに食料寄付を増やしていく必要があります。企業からの信用を得るため、団体の情報提供方法の改善、資料の見直しを行い、協力企業をさらに増やしていきたいと考えていました。

また、業務効率をあげるためにも管理業務の見直しも必要性を感じていました。



派遣された専門家



岩崎 幹明 氏
NPO法人
フードバンク福岡

特に優先課題であった企業対応の強化については、団体の活動が学びの場の運営など多岐にわたっているため、活動内容の整理と明確化が必要だと感じました。具体的には、フードバンクやフードドライブ活動を団体の重点業務と位置付けていること、他の団体との差別化ポイントを企業向けの提案資料やホームページにも展開することで改善できると感じました。

業務改善としては、私が所属している団体への視察を実施することで、食料の保管方法や管理帳票を実際に見てもらい、改善できそうなところは取り入れてもらえればと思いました。

どんな変化が起きた？

企業を意識した 情報発信の取り組み

外部対応に必要な情報提供の内容と、プレゼンのポイントを確認することができました。

ホームページの見直しとしては、食品企業の問い合わせに対応できるよう、内容を修正することにしました。また、団体のコンセプトを強調することで、情報の整理と伝わりやすい内容になりました。

こうした取り組みや情報を整理できたことによって、改めてフードドライブの取り組みが企業連携のポイントであることに気が付きました。企業との連携を強化することで、フードバンク活動にとどまらず、子どもの居場所づくりなどにもさらに取り組んでいきたい、思いを新たにすることができました。

申請書フォーマットを統一し 必要な情報を整理

NPO法人 フードバンクはりま

理事長の自宅の敷地内に倉庫や事務所を構え、地域の子育て世帯や福祉施設へ支援を行っています。冷蔵庫設置のためクラウドファンディングに挑戦したり、2021年には新倉庫を増設したりと、積極的に事業拡大を進めています。

話し手 辻本 美波氏

専門家派遣 2回 3.5時間



所在地	兵庫県姫路市	2021 年度実績	
代表者名	理事長 辻本 美波	取り扱い量	約 40 トン
設立年	2019年	食料提供先	約 1,911 世帯
スタッフ数	ボランティア20名		
活動日数	週7日		
URL	https://foodbankharima.org		

直面していた課題

困窮世帯へ 支援を届けたい

困窮している世帯の中には、何らかの事情で自ら助けを求められず、つらい状況から抜け出せない場合もあります。地域のソーシャルワーカーと連携はしているものの、近隣の地域を含めた広域まではカバー出来ていません。

困窮世帯に私たちの活動を知ってもらい機会を増やし、地域と連携しながら支援に結び付けていくことが必要だと考えています。



派遣された専門家



太田 茂雄 氏
フードバンク滋賀

辻本理事長の自宅の敷地内に事務所や倉庫、冷蔵設備まで備えられていて驚きました。また団体事務所でのヒアリング時には、行政担当者が倉庫へ食料を取りに来ていて、行政や地域と協力し活動を展開されている様子がうかがえました。

支援の拡大という課題については、既にホームページやSNSなどを活用し広報に取り組んでいるため、行政や福祉団体との連携がよりスムーズに進むような取り組みを紹介。行政や団体など異なる窓口から必要な情報を得られるよう、共通の食料支援利用申請書を作成することを提案しました。

どんな変化が起きた？

申請書を作成し 複数の窓口に対応

支援世帯の拡大には、行政や福祉団体などとの連携が不可欠ですが、担当となる窓口は一つではありません。例えば、行政のフードバンクに関わる担当部署は、生活困窮・高齢者福祉・児童福祉などがあげられます。そのほかにも病院や学校、福祉施設などさまざまな窓口と連携する必要があることを、専門家と改めて確認しました。

今回共通の食料支援利用申請書フォーマット作成に取り組んだことで、異なる窓口から申請を受ける際にも必要な情報を整理できるようになりました。今後は各窓口にあらかじめ申請書を共有し、よりスムーズに連携を進め、一人でも多くの困窮世帯に支援を届けたいと思います。

団体の規模と目的に合わせ 運営の方向性を確認

フードパントリーえんむすび

2022年に発足したばかり。月に一度、厚木市内の公民館にてひとり親世帯へのフードパントリー活動を行っています。会場ではおもちゃやゲームも用意し、親と一緒に訪れることも楽しめる空間づくりに努めています。

話し手 毛木 宏美氏

専門家派遣 1回 1.5時間



所在地	神奈川県厚木市	2022 年度実績 (11 月までの 5 回分)	
代表者名	代表 毛木 宏美	取り扱い量	1.05 トン
設立年	2022年	食料提供者	企業 約 37 社
スタッフ数	ボランティア9名	食料提供先	約 67 世帯
活動日数	月5日		
URL	https://sites.google.com/view/enmusubiiii		

直面していた課題

法人化や助成金を 検討したい

厚木市郊外の食料支援が必要なひとり親世帯に、食料を無償で提供する活動を展開すべく、2022年4月に設立。団体を設立する前は、フードバンクあつぎの活動にも携わっていました。さまざまな機関や窓口で相談する中で、団体の信頼性を高めるための法人化や、倉庫代などの財源確保のための助成金申請などのアドバイスがあり、具体的にどこを目指して取り組んでいくべきか悩んでいました。



派遣された専門家



田中 入馬 氏
マネジメント・
クライメイト・
ラボ合同会社

代表の毛木さんは、本業として別のお仕事を持ちながら団体を運営しているとのこと。そこで、事業規模を大きくする選択肢だけではなく、地域資源や団体のキャパシティ、そして団体が目指す社会像を聞きながら、どのような選択肢があるのか、非営利組織の経営論を含めて助言しました。

私が大小さまざまな規模のフードバンク活動に携わった経験から、小規模でも濃く支援していくスタイルもあるとお伝えしました。オンラインミーティング終了後も気軽に相談をしてもらおうよう伝え、何度かメールをやり取りしました。

どんな変化が起きた？

体制づくりや 寄付集めの取り組みへ

専門家の助言で、今後の方向性が明確になりました。細くとも長く活動を続けていきたいという思いもあり、まず法人づくりよりも体制づくりが先と決断できました。設立趣旨書の作成や事務局スタッフの拡充、役割分担の見直しに取り組み、今は資金計画を策定しています。

また、私たちは一人ひとりの顔と名前が分かる関係性づくりを大切にしています。自分たちのペースで活動できるよう、助成金は申請せず、まずは寄付金を集めて小さくとも自走できることを目標にしました。団体ホームページや活動紹介パンフレットがようやく整いはじめたので、これからサポート会員を本格的に募集していきます。

組織運営への不安を払拭し 新たな助成金の獲得へ

NPO法人 フードバンク浜っ子南

主にひとり親家庭支援として、横浜市内5カ所でフードパントリーを開催。各会場で月に一度開催し毎月約180世帯が参加しています。また地域の支援団体と連携したこども食堂などへのフードデリバリー事業や、市内4カ所でフードドライブ事業も。

話し手 下山 洋子さん

専門家派遣 3回 5時間



所在地	神奈川県横浜市	2021 年度実績	
代表者名	代表理事 下山 洋子	取り扱い量	1.4 トン
設立年	2021年		(うち他のフードバンクからの提供量 0.7 トン)
スタッフ数	ボランティア40名	食料提供者	企業 約 20 社
活動日数	週4日	食料提供先	約 20 団体／約 180 世帯
URL	https://www.fbh-minami.org		

直面していた課題

活動を支える財源確保と 中長期の方針決定を

活動開始から約3年が経過し活動規模が大きくなるにつれ、年間約90万円の倉庫代を含め固定費がかかるようになっていました。これまでは少額の助成金を複数活用することで賄ってききましたが、今後は活動を支える財源を確保するため中長期的な方針をとりまとめる必要性を感じていました。将来的にはより大きな倉庫と、フードパントリーを常設できる拠点を持ちたいと考えています。



派遣された専門家



大野 覚氏
認定NPO法人
茨城NPOセンター・
コモンズ

代表である下山さんの市民活動の経験値が高く、組織基盤強化の重要性や改善すべきことを理解し、団体の将来像もすでにお持ちでした。抱える不安や将来のイメージなどを傾聴し、他団体の参考事例を適宜紹介しました。

寄付だけではなく、団体賛助会費拡充の可能性をお伝えしたり、メディアとの連携事例を共有したりしました。3回ヒアリングし、団体の内部でも協議され、今後継続的に寄付を集める中期計画を策定されました。

組織の課題を一緒に悩み、前向きに将来を考える壁打ち役の必要性を感じました。

どんな変化が起きた？

新たな助成金を獲得 寄付の仕組みづくりも

次の展開を考えるタイミングで専門家に相談できたことで、組織運営などへ漠然と抱いていた不安を払拭できました。

財源確保については、「より額の大きい助成金の獲得と、継続的に寄付を得る仕組みづくりが必要」と助言があり、中長期計画に盛り込みました。タイミングも重なり、去年はひとり親家庭を支援する約300万円の助成金に挑戦、採択されました。新たな地域連携も生まれ、より多くの支援につながりました。

現在は寄付の獲得に向けて、関係者の洗い出しと寄付決済システムの導入検討を進めています。これまでの受け身の姿勢から意識を変え、今後は積極的に仕掛けていきたいと思っています。

持続可能な組織づくりに向け スタッフへ意識を共有

フードバンクかしわざき

フードバンクにいがたの柏崎拠点として2020年に発足。新潟県内のフードバンク団体と連携しながら、フードドライブなどから集まった食料をもとに、こども食堂やひとり親世帯、生活困窮者などに支援を行っています。

話し手 小池 勝己さん

専門家派遣 3回 8時間



所在地	新潟県柏崎市	2021 年度実績	
代表者名	代表 小池 勝己	取り扱い量	10 トン
設立年	2020年	食料提供者	企業 約 25 社
スタッフ数	ボランティア25名	食料提供先	約 15 団体／約 60 世帯 ほか
活動日数	週7日		

直面していた課題

無理なく運営できる 体制づくりを

これまで運営業務のほとんどを、代表である私と家族で担ってきました。しかし私はフードバンク以外にも多岐にわたり活動しているため、体制を整えることへ注力できずにいました。その一方で地域からの期待やニーズは多くあり、活動を継続していききたいと思いはあれど、どうすればいいかわからない状態。無理なく運営を続けられるよう、運営体制への助言を必要としていました。



派遣された専門家



葛巻 徹氏
一般社団法人
みちのく復興・
地域デザインセンター

代表の小池さんが日々の活動に追われ、組織のミッションやビジョン、長期計画など、ゴールとなるイメージが可視化されていない状態でした。ボランティアスタッフへの共有もされていないため、ただ活動に参加するだけに近い関わり方となっていました。また、小池さんとその家族で運営のほとんどを担っていて、組織体制が整っていないという課題もありました。

持続可能な運営に向け、団体のゴールとなるイメージを可視化しボランティアスタッフへ共有することで、メンバーが積極的に参加するきっかけになると考えました。

どんな変化が起きた？

ゴールを共有し 持続可能な組織へ

専門家の説明から、スタッフ間で意識を統一させることの重要性を改めて認識し、ボランティアスタッフとのミーティングを企画することになりました。こうした機会はこれまでなかったので、事前に専門家と内容の確認を行い、準備すべきことや開催後のチームづくりに向けた計画を確認しました。

ミーティング当日は、団体のゴールとなるイメージのほか、チームづくりの必要性や分担、人材やお金などの調達方法について共有できました。

ミーティングを開催したことで、ボランティアスタッフとともに持続可能な組織について考え、一体感を持って活動する共通の意識が生まれました。

団体基盤を強化し 助成金申請に挑戦

NPO法人 フードバンク飯塚

地域の団体や婦人会と共同し、子育て世帯や困窮世帯へ定期的な食料配布会や、こども食堂の運営を行っています。また、フードドライブ活動や寄付型自動販売機の設置などにも積極的に取り組み、フードバンク活動の周知に努めています。

話し手 出水 貴之氏

専門家派遣 2回 4時間



所在地	福岡県飯塚市	2021 年度実績	
代表者名	理事長 井上 節子	取り扱い量	20 トン
設立年	2020年	食料提供者	企業 約 7 社
スタッフ数	ボランティア40名	食料提供先	約 60 世帯
活動日数	月4日		
URL	https://fb-iizuka.net		

直面していた課題

助成金申請の ノウハウに課題

団体の運営資金が不足しています。これまで寄付金で運営してきましたが十分とは言えず、新たな資金調達の必要性を感じています。また、活動に必要な法人所有の車両もなく、倉庫も手狭になっています。

しかし、スタッフがボランティアのみのため、企業などへの営業活動は難しい状況です。助成金の申請が現実的と考えていますが、ノウハウがなく手をつけられずにいました。



派遣された専門家



陶山 恵子 氏
認定NPO法人 フードバンク
北九州ライフアゲイン



大竹 正寛 氏
株式会社マイファーム

助成金申請に課題を感じているということでしたが、まずは申請できる体制を整える必要があると考えました。

助成金申請を監事が主に担当する予定だと聞き、ガバナンスの観点からも次回の役員改正の際に理事として就任してもらうようアドバイスしました。

助成金申請についてヒアリングを進めると、これまで事業計画や資金計画について、団体内できちんと話し合われたことがないということでした。団体の長期的な運営と資金獲得のために重要であると伝え、これをきっかけに話し合いの機会を設けることをおすすすめしました。

どんな変化が起きた？

体制を整え 助成金申請に挑戦

専門家からのアドバイスを受け内部で話し合い、助成金申請を中心に取り組む予定の監事を理事へ移行する方向で検討が進んでいます。

助成金申請にあたり、まず助成元がこういった目的で助成団体を募集するかを理解し、それが自団体の事業計画に沿うものであるか考えることの重要性を教えていただきました。

現在早速2件の助成金申請に挑戦し、結果を待っている状況です。課題に真剣に向き合う機会をいただき、解決へ向けまずは一歩動き出せました。

また、専門家からは団体の強みを客観的に教えていただき、新たな発見があったことで今後の活動にも自信ができました。

地域で連携し貧困支援 体制構築を学ぶ

フードバンクあしかが

もともとこども食堂を運営していたところ、食料支援を求める声が増えたことをきっかけにフードバンクを開始。企業の災害用備蓄食料入替時の受け入れや、閉店店舗の在庫品受け入れなどにも取り組んでいます。

話し手 高沢 友佳里氏

専門家派遣 2回 7時間



所在地	栃木県足利市	2021 年度実績	
代表者名	代表 高沢 友佳里	取り扱い量	6 トン
設立年	2020年	食料提供者	企業 約 73 社
スタッフ数	ボランティア8名	食料提供先	約 10 団体／約 546 世帯
活動日数	週5日		
URL	https://foodbank-ashikaga.amebaownd.com		

直面していた課題

地域全体で連携し 取り組む必要性

フードロス解消と貧困支援の二本柱でやってきたものの、今後は企業連携を念頭にフードロス解消に注力をしていきたいと考えていました。

しかしながら、貧困支援に関しては、現状近隣に生活相談を主事業とする団体がありませんでした。フードバンク団体以外にも受け皿となりうる団体と連携し、地域全体で困窮世帯への支援に取り組む必要性を感じていました。



派遣された専門家



阿部 知幸 氏
認定NPO法人
フードバンク岩手

貧困支援に取り組む体制づくりのため、困窮世帯への対応強化や専従スタッフの確保、社会福祉に対する知識の向上に取り組む必要がありました。

まずは、活動現場を訪問しながら目標の立て方や実践の優先順位を確認し、運営に必要な体制をどう構築すべきか共有。その後、私たちの団体へ視察に来てもらいました。行政や社会福祉協議会などとの連携のあり方、役割分担の整理、食品の提供譲渡に必要とする確認事項や書類の共有などについて、実際のやりとりやオペレーションを見ながら、実践まで落とし込んでもらえるようにしました。

どんな変化が起きた？

視察を通して 具体的な事例を学ぶ

フードバンク岩手視察時の、“ケースワーカーの初任者研修用資料”を用いた意見交換においては、フードバンクの福祉的な支援機関や企業などとの関わり方、関係構築の方法について具体的な事例を通じて考えを深めることができました。

企業からの信頼と協力を得るため、衛生管理を徹底することの重要性も改めて学びました。また、社会福祉に関する知識を深められたことにより、地域の社会福祉団体との連携やコミュニケーションがよりスムーズになると考えています。

今後より腰を据えて活動推進するにあたって、気軽に相談できる専門家と出会えたことにも心強さを感じています。

フードバンク事業開始に向け 運営方法をアドバイス

NPO法人 Kodomo Saijo

こども食堂の開催やひとり親世帯へのお弁当の提供、農業体験などを通して、地域の子育て支援を行っています。愛媛県西条市にこれまでなかったフードバンク事業に2023年から取り組みため、2022年10月から準備を開始したばかりです。

話し手 大道 世紀江 氏

専門家派遣 3回 6時間



所在地	愛媛県西条市	2021 年度実績
代表者名	事務局長 大道 世紀江	開始前のため実績なし
設立年	2015年	
スタッフ数	有給1名／ボランティア4名	
活動日数	週5日（こども食堂）	
URL	http://kodomosaijo.com	

直面していた課題

新規フードバンク事業 へのアドバイスを

これまでに子育て支援とひとり親家庭への支援に4年間取り組んできました。新たにフードバンク活動を始めるにあたり、安全かつ効率よく食品を管理・保管する方法と、食品の受け入れから提供までの運営方法について、事前に専門家のアドバイスがほしいと思っていました。また、地域の実情や自団体の状況に即して、継続可能な活動のあり方や方針を検討する必要がありました。



派遣された専門家



難波江 任 氏
NPO法人
e ワーク愛媛
(えひめフードバンク愛媛)

まずは団体を訪問し、活動拠点を確認しながらヒアリングを行いました。その中ですぐに取り組むことができそうな、食料保管場所の整備方法など設備上の課題や、害虫対策の必要性などを伝えることができました。

一方で、事業運営における課題として、食料の受け入れや提供に伴う在庫管理や、提供先の記録方法、寄贈団体との必要な契約書類などについては、実作業や使用書類を見ながら業務フローを確認してもらった方がよいと考えました。そこで、日を改めてeワーク愛媛の事務所に実務説明を実施しました。

どんな変化が起きた？

食料管理方法の改善や 必要な実務の確認

専門家に活動拠点を見ていただいたことで、押さえるべき食料管理・保管のポイントなどすぐに実践できるアドバイスをもらえたことがありがたかったです。それらを取り入れながら事業の準備に取り組んでいます。

また、実作業や必要な書類を見せていただいたことで、実務のイメージがクリアになり、開始前に取り組むべきことが明確になりました。

フードバンク活動には、食品ロス削減・生活困窮者支援・地域再生と地域共生促進という3つの意義があると解説がありました。自団体の活動方針をどう定め、それをどのように活動に反映していくべきか、改めて考える機会にもつながりました。

最適な法人格をアドバイス NPO法人設立総会開催へ

フードバンクくるめ

約150坪の大型倉庫を構え、筑後地方と佐賀県の一部を対象に活動しています。倉庫には業務用の大型冷蔵庫や冷凍庫、玄米保冷库・精米機を備え、冷蔵品や野菜等にも対応。食品は子ども食堂や福祉施設等60以上の団体に提供しています。

話し手 代表 浦川 豊彦氏

専門家派遣 2回 2時間



所在地	福岡県久留米市	2021 年度実績
代表者名	浦川 豊彦	取り扱い量 46.3 トン
設立年	2017 年	(うち他のフードバンクからの提供量 19.6 トン)
スタッフ数	ボランティア 7 名	食料提供者 企業 約 65 社
活動日数	週 2 日	食料提供先 約 66 団体／約 6,000 世帯
URL	http://fb-kurume.com/	

直面していた課題

先を見据え法人化を検討 専門家の意見を

2017年から任意団体としてフードバンク活動を継続しています。最近では人員体制や財務は安定していますが、不動産の所有や各種契約、補助金の応募等、長期的な団体運営を考えると法人化が欠かせません。

しかしいくつかの法人格のうち最適なものが分からず、特に税金面でのメリットについてフードバンク運営の法人化にあかると専門家の意見を聞きたいと思っていました。



派遣された専門家



関口 宏聡 氏
NPO法人 セイエ

任意団体ながら大型食料保管倉庫を保有し支援対象を広げ、福岡県西部の中核的なフードバンクとして活躍しています。長期的な団体運営を見据え、事業継続のため法人格の取得を検討中とのことで、まずはNPO法人と一般社団法人それぞれのメリットとデメリットを詳しく説明しました。

団体の特徴として企業や個人からの寄付をベースとしたフードバンクであることから、NPO法人が適していると考えアドバイスしました。また法人設立に向けたスケジュール感や役員体制、必要な書類についても共有しました。

どんな変化が起きた？

NPO 法人設立を決意、 設立総会の開催へ

これまで法人格の取得について周囲に相談すると、NPO法人をすすめる人はあまりいませんでしたが、専門家の関口さんからは、寄付をベースにするフードバンク活動にはNPO法人が適していると助言を受けました。説明に納得し、団体内での意志決定を経てNPO法人の取得を決めました。

法人設立に向けた相談ののち任意団体から“法人成り”の形式で、任意団体通常総会兼NPO法人設立総会を2023年4月に開催することを具体的に決めることができました。

現在は法人設立書類の準備と役員の選定を進めており、これを機に活動強化と安定した団体運営を目指します。

寄贈管理システム導入で データ管理がスムーズに

フードバンク泉佐野 (NPO法人キリンこども応援団)

2022年8月より“大阪府泉佐野市フードバンク活動推進業務委託事業”としてフードバンク事業を開始。こども食堂の運営やフードパントリーに取り組んでいるNPO法人キリンこども応援団が運営しています。

話し手 川上 智子氏

専門家派遣 3回 13時間+事務受託



所在地	大阪府泉佐野市	2022年8月～2023年2月実績（2022年設立のため2021年度の実績はなし）
代表者名	代表理事 水取 博隆	取り扱い量 15トン
設立年	2022年	（うち他のフードバンクからの提供量100～200kg）
スタッフ数	有給2名	食料提供者 企業 20 社
活動日数	週5日	食料提供先 約40団体／約600世帯
URL	https://foodbank.izumisano.kirin-npo.com	

直面していた課題

寄贈品のデータ管理が 大きな負担に

フードバンク活動開始から日が浅く、運営の仕組み作りや寄贈拡大のための多くの課題がありました。

中でも寄贈品のデータ管理については、同じような情報を繰り返し入力していたり、寄贈数と提供数のズレの原因究明に時間がかかったり、煩雑なためつい記録が後回しになったりと、大きな負担になっていました。業務効率をあげるためにも改善が必要だと考えていました。



▲発行されるラベルイメージ

派遣された専門家



河田 了 氏
業務改善エンジニア

寄贈から提供までをスムーズに管理できるよう、Googleスプレッドシートとスマホアプリから成る寄贈品管理システムを作成しました。

心がけたのは、シンプルで軽快に動くこと、平易な技術で作ること、品物の動きとデータが確実に連動することでした。また、初期費用やランニングコストを抑え、ほぼ新たな費用無しで導入できました。

寄贈品の情報の入力は一度で済むようにし、寄贈品情報とQRコードの載ったラベルを品物に貼り付けることで、保管品のカテゴリや情報が一目で分かるようにしました。

どんな変化が起きた？

アプリの簡単な入力で データ管理が可能に

システムを導入してから簡単な入力で在庫が自動更新されるようになり、業務効率が各段に上がりました。

品物を団体へ提供する際は、アプリでQRコードを読み受領書を発行。入力の後回しがなくなり、正確性とトレーサビリティも向上しました。受領書にはフードバンク利用時の注意事項が記載されるので、サインをもらうことで受取団体への継続的な注意喚起にもなっています。

アプリで入力した情報はシステム内に蓄積され、簡単な手順で提供記録一覧を作ることができるようになりました。

行政への提出資料も、導入した月からこのシステムで作成できるようになりました。

必要な情報を適切に管理 情報共有をスムーズに

認定NPO法人 セカンドハーベスト名古屋

名古屋を中心とした東海3県で活動。野宿生活者や母子生活などを支援する団体へのパートナー団体支援、行政と連携した個人の生活困窮者への支援、社会的養護施設を退所した母子家庭などへの支援、主にこれら3つを柱に活動しています。

話し手 谷口 かおる氏

専門家派遣 5回 9.5時間



所在地	愛知県名古屋市	2021 年度実績
代表者名	理事長 前川 行弘	取り扱い量 524 トン
設立年	2008年	食料提供者 企業 約 287 社
スタッフ数	有給3名／ボランティア70名	食料提供先 約 174 団体／約 7,771 世帯
活動日数	週5日	
URL	https://www.2h-nagoya.org/	

直面していた課題

スタッフ間の情報共有を より効率的に

近年のコロナ禍の影響や物価高などの社会情勢により、支援の依頼が増え続けています。

事業規模が年々大きくなるにつれ、支援者や食品寄贈先などの情報管理がますます重要になるとともに、煩雑さも増しています。情報管理のためにSalesforceを導入していますがうまく活用できていないとはいえず、情報を扱うスタッフも増えたため、より効率よく情報を共有したいと考えていました。



派遣された専門家



森 奈緒美 氏
NPO法人
NPOサポートセンター

まずはどんな情報を把握・管理したいかを確認するところから始めました。主にSalesforceで情報を管理しているとのこと確認したところ、必要と思われる項目がなかったり、逆に重複している項目があったりと情報が整理されていない状態でした。

スタッフ間の情報共有の効率化や、どうしたら情報を最大限活用できるかなど一緒に検討しました。

また企業とのやりとりの記録がセールスフォースとは別のエクセルに保存されているなど情報が分散していて、こちらも改善が必要でした。

どんな変化が起きた？

Salesforce の 情報を整理

Salesforceの情報を見直し、必要な項目のカスタマイズを進めることができました。

例えば支援者にお礼状などを発送する際に適切な情報を簡単に抽出できるようになったり、重複データの確認方法がスムーズになったりと、作業効率のアップにつながりました。

専門家にSalesforceの操作方法を指導してもらえたことで、設定変更が必要な部分にも、私たちスタッフで対応できるようになったことも大きな成果の一つです。

分散した情報をどう一元化していくかについても検討できたので、スタッフが必要な情報にすぐにアクセスできるよう今後ともさらに改善していきます。

複数人が使用するデータの機能改善で負担軽減

NPO法人 埼玉フードパントリーネットワーク

埼玉県内全域の加盟団体（各パントリー）が利用できるよう、県内10カ所に中間拠点となる倉庫などを設置。子育て中の家庭を中心に支援を実施しています。県と連携してフードパントリーの立ち上げ支援などにも取り組んでいます。

話し手 野川 真理子氏

専門家派遣 事務受託



所在地	埼玉県越谷市	2021 年実績	
代表者名	理事長 草場 澄江	取り扱い量	100 トン
設立年	2020年	(うち他のフードバンクからの提供量15.2トン)	
スタッフ数	ボランティア7名	食料提供者	企業 約 53 社
活動日数	週7日	食料提供先	約 58 団体／約 3,540 世帯
URL	http://saitama-fpn.main.jp		

直面していた課題

複数の団体が 一つのデータを使用

70近いネットワーク加盟団体が1つのグーグルスプレッドシートを共有し、食料の配付日と配付数を入力しています。しかし、期限内に入力されない、ほかの団体のデータを変えてしまう、操作ミスでシートが壊れるなど問題が多く、維持管理が負担となっていました。

また、管理者側としても、シートが複雑で新規に団体追加した際などに、数式が壊れていないか不安でした。



▲改善されたスプレッドシートの一部

派遣された専門家



河田 了氏
業務改善エンジニア

スプレッドシートでは完全に防ぐことが難しい課題もあり、長期的には専用アプリ化が適当と思われました。しかし、ヒアリングを進めると、ITに不慣れな加盟団体担当者も利用する中で、ようやく現在のやり方が定着した所とのことでした。時間的な制約もあり、新たなツールの導入はハードルが高いと判断しました。

そこで、スプレッドシートに元々ある機能と自動化プログラムを使って問題解決を図りました。管理者チームの人材が豊富で学習意欲が高く、一定のITスキルを持つ人がいたことがとても心強かったです。

どんな変化が起きた？

操作方法是変わらず 負担が軽減

スプレッドシートの機能が改善されたことで、入力者・シート管理者双方の負担が軽減しました。

具体的には、①意図しない他団体のデータの変更やシート破壊の防止、②複数人で入力中でも自分の画面には担当範囲のみが表示できる、③入力漏れを検出しメールもしくはLINE宛てにリマインダーが送信される、④ミスと思わしき入力検出され赤字になる、⑤数式の簡素化によるシート更新時の手間の削減、などが挙げられます。

これまで使用していたスプレッドシートと基本的な操作方法が同じなので、加盟団体へのトレーニングの負担も少なく活用ができています。

全体の共通課題を整理し 研修会を実施

新潟県フードバンク連絡協議会

新潟県内のフードバンクが連携し2020年に発足。主にひとり親世帯への支援を行なっています。食料や日用品の支援以外にも、学用品や生活家電の支援、自殺対策や専門家相談、シェルター事業にも取り組んでいます。

話し手 小林 淳氏

専門家派遣 1回 2時間



所在地	新潟県三条市	2021 年度実績	
代表者名	会長 山下 浩子	取り扱い量	400 トン
設立年	2020年	(うち他のフードバンクからの提供量20トン)	
スタッフ数	有給20名／ボランティア2,000名	食料提供者	企業 約 1,000 社
活動日数	週7日	食料提供先	約 300 団体／約 6,000 世帯
URL	https://niigata-fblc.org		

直面していた課題

コロナ禍で増加した 団体への対応

コロナ禍以降、県内で新設のフードバンク団体が急速に増加しています。そんな中、新潟県内の連携組織22団体（2022年11月現在）から、活動規模・経験・運営方法などが異なる団体間の合意形成の取り方についての問い合わせを多く受けるようになりました。また、各団体ともに運営資金確保の課題を抱えていて、連絡協議会だけでなく個々の団体への支援ニーズも高まっていました。



派遣された専門家



米山 廣明氏
一般社団法人
全国フードバンク
推進協議会

連絡協議会だけでなく、連絡協議会に所属する団体への支援が必要なケースでしたので、連絡協議会が実施する研修会に参加し、その場で課題解決を図ることにしました。

そのためには、事前に各団体の状況を把握する必要がありました。そこで、各団体の現状や課題を連絡協議会の担当者にヒアリングを実施し、共通課題を11項目に整理したうえで研修会に臨みました。

運営資金の課題については、他地域のフードバンク団体が実際に活用している国の補助事業や民間助成金を中心に情報提供しました。

どんな変化が起きた？

共通課題として 11項目に整理し説明

研修会には県内から20名近くのフードバンク関係者が参加しました。共通課題としてまとめた11項目は、事業費の確保、行政との連携、運営上の複数の相談事など多岐に渡る内容でしたが、一つひとつ丁寧に、対応策や全国の先進事例を説明いただきました。

運営資金については「国の施策や補助事業の内容が分からず申請できていない」という課題を抱えた団体もいる中で、資金確保の新たな手段をともに学ぶことができました。

活動年数が様々な団体が一緒に研修に参加することで、知識の差が埋まり、ネットワーク全体のレベルアップにもつながったと思います。